

# 知行合一

「先之勞之」(論語)は、「これを先んじ、これを勞す」(率先してやりなさい、ねぎらいの気持ちを忘れてはいけない。)心からのねぎらいとは感謝にある。

学校教育目標

潤いと輝きにあふれる学校

芦北町立田浦中学校

学校だより 第6号

令和2年8月7日

文責 校長 沖田 龍藏

## 試練の中にあっても、歩み続けた1学期を振り返って。

この度の熊本県南部豪雨災害により、被害を受けられました皆様に心からお見舞い申し上げますとともに、被災地の1日も早い復旧・復興を心から願っております。



先月号を読み返しますと、「七夕飾り」の時、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が止むことを、短冊に願いを込めて書いた矢先の豪雨災害だったことが思い出されます。6月の学校生活の再開から日常を取り戻しつつあっただけに、生徒も職員もコロナ禍の中、追い打ちをくらった出来事であり、自然災害の怖さをまざまざと見せつけられました。

今学期を振り返ると、4月8日の就任式・始業式、9日は入学式、10日と13日を平常日課で過ごした後、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、14日から臨時休校に入りました。休校中でしたが、担任による玄関先での家庭訪問や課題の点検等を定期的に行いました。GW後も学校の完全再開はできず、学年ごとの分散登校を行い、5月18日から午前中までの半日登校が始まりました。20日に約1ヶ月ぶりに給食が届き、皆で喜びを噛みしめたことも思い出されます。やっと6月1日から学校が通常どおりに再開され、日常が戻りつつあった時の7月4日未明から明け



方にかけて豪雨災害を受け、6日～10日までの1週間、再び臨時休校となりました。本校は幸いにも校舎内の被害はほとんどなかったため、甚大な被害を受けた佐敷小学校を22日から本校で受け入れることができました。災害からの復旧・復興は道半ばの困難な状況下ではありますが、自分たちで「何ができるか、何をしなければならないか」と「やるべきこと」を着実に実行してきました。



例えば、3年生は、制約の多かった練習時間の中、スポーツ交流会・練習試合(バレーは今週末)をやり遂げることができました(結果は裏面参照)。澆刺としたプレーを見せてくれ、監督、保護者に感謝の言葉を述べることもできました。また、8月5日には、7月1日の小森先生に続き、吉井先生が2年1組で芦北教育事務所の指導主事を招聘しての研究授業を行いました。教師も「研究と修養」の歩みを止めることはありませんでした。本校生徒と教職員に、困難に屈しない「気概」を感じました。明日から、短い夏休みに入ります。生徒の皆さんもお盆には保護者と一緒にご先祖様を供養し、ゆっくりと休養をとってください。そして、また元気に24日にお会いしましょう。

ホームページで情報発信「芦北町立田浦中学校」で検索(学校生活の様子は随時更新中)を芦北町では、論語教育に力を入れています。まちづくりの目標に「すべては21世紀を担う子供たちのために」を掲げ、「温故創新」が公教育の方向として示されています。